

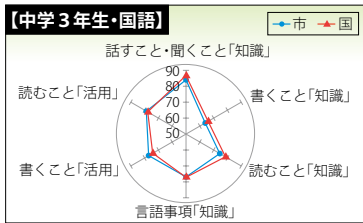
全国学力・学習状況調査結果概要と対策について

平成21年度の「全国学力・学習状況調査」が本年4月に実施され、8月末に結果が公表されましたので、本市の概要をお知らせします。

【参加者】小学6年生(960人)、中学3年生(969人)
 【調査内容】「知識」および「活用」に関する問題
 ▼生活習慣・学習環境に関する質問

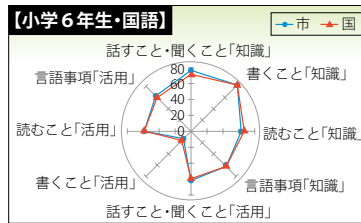
①学力に関する結果と学力向上の手立て

下のグラフは、「知識」と「活用」の学力を表したものです。本市の児童生徒の学力は、小・中学校とも「国語・算数(数学)」において、国の平均正答率とほぼ同等であるとの結果が出ています。今後、学力を高めるためには、学んだことを家庭で復習したり、日常生活に活かしたりすることが大切です。



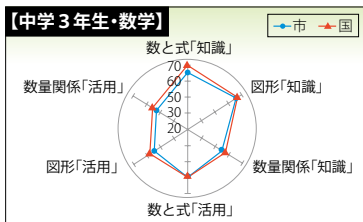
漢字・文法の練習、古文の音読などの家庭学習、幅広い読書などを計画的に進めることが大切です。

日常会話の中でも、文末まできちんと表現したり、生活の記録や日記の中で、テーマや表現の工夫をしたりすることで、国語の力が高まります。



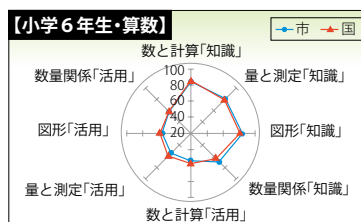
漢字練習や音読など、かねての家庭学習を大切にしましょう。文学だけではなく、自然や社会に関する本など、幅広い読書に心掛けたり、日記の中で、経験したことやそのことに対する自分の思いをつづったりすることで、思考力や表現力が高まります。

学んだ公式や計算を生活場面で活用することが大切です。例えば、目的地への道のりと時速との関係から到着時刻を予測したり、米100粒の重さをもとに、10kgの米粒の数を予想したりするなど算数を生活に活かしましょう。



身の回りの事象を数学的に見ることが大切です。例えば、噴水の水やつり橋などを放物線としてとらえたり、地図上の長さや縮尺との関係から実際の距離を求めたりすることが大切です。

学んだ公式や計算を生活場面で活用することが大切です。例えば、目的地への道のりと時速との関係から到着時刻を予測したり、米100粒の重さをもとに、10kgの米粒の数を予想したりするなど算数を生活に活かしましょう。



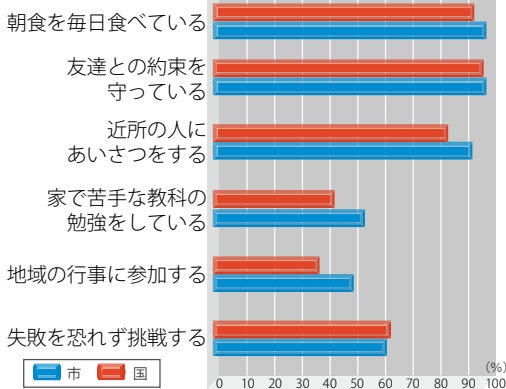
学んだ公式や計算を生活場面で活用することが大切です。例えば、目的地への道のりと時速との関係から到着時刻を予測したり、米100粒の重さをもとに、10kgの米粒の数を予想したりするなど算数を生活に活かしましょう。

学んだ公式や計算を生活場面で活用することが大切です。例えば、目的地への道のりと時速との関係から到着時刻を予測したり、米100粒の重さをもとに、10kgの米粒の数を予想したりするなど算数を生活に活かしましょう。

②学習状況調査に関する結果と分析

生活習慣・学習環境については、本市の児童生徒は国に比べて良好であるという結果が出ています。一方で失敗を恐れず挑戦することに課題も見られました。

学習状況の特徴: 中学3年生

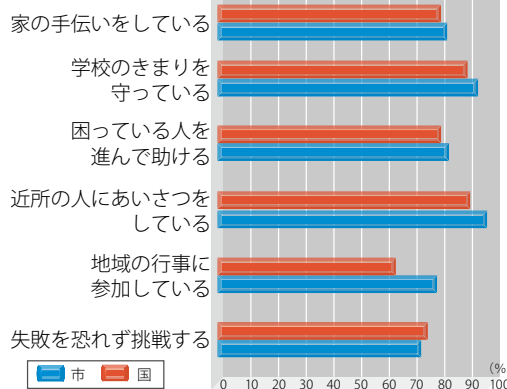


調査結果から、約束を誠実に守っている生徒が多いことがわかります。また、苦手な教科に取り組む生徒が多いことも本市生徒の特徴です。苦手意識は学力向上への負の要因ですが、努力しようとしている意欲が感じられ、今後の学力向上が期待できます。

失敗を恐れると積極性が失われ、自分らしさを十分に発揮することができません。自分自身で、失敗した原因を明らかにし、次に生かすことが大切です。

さらに、地域行事に進んで参加させるなど、さまざまな体験を通じて、活動に参加する楽しさや喜びを実感させてください。

学習状況の特徴: 小学6年生



調査結果から、きまりを守り礼儀正しい児童であることがうかがえます。また、地域の中で生まれ、進んで人助けができる心優しい面も見られます。規範意識の高い児童は、学力向上が望めます。このことから、今後ますます学力向上が期待できます。一方、チャレンジ精神を高める必要があります。学校や地域などでの体験活動や家族の一員としての手伝いなどを通して、やり遂げた充実感や達成感を味わわせることが大切です。家庭でできる仕事を家族で話し合ってみてください。